

6月に市民討議会

北大の三上直之准教授が講演

今年のテーマを議論

千歳JC3月例会

千歳青年会議所(JC)、南雲勇次理事長の3月例会が13日、千歳商工センターで開かれた。6月22日に開催を予定する2回目の市民討議会に関連し、北海道大学の三上直之准教授(社会学)が講演。その後、出席者が今年の市民討議会の議題を話し合った。

も「実施が目的なのか、より大きな目的のための手段なのか、考える必要がある」と問題提起した。講演後は出席者がグループに分かれて今年の討議会のテーマを話し合い、「中心市街地の活性化」「市民参加の防災訓練」「定住促進」「高齢化」

市民討議会は無作為抽出で選ばれた市民が、公的な課題についてグループに分かれて議論し、行政への提言につなげる試み。千歳では昨年5月に「千歳川を生きかした地域振興」をテーマに30人が出席した。

例会では三上准教授が、抽選などで社会の縮図となる市民を集め会議を開く、市民討議会をはじめとした政治参加手法を説明。大規模に参加市民を募る「討論型世論調査」が野田前政権下で政策に及ぼした影響や、北海道でも道伝子組み換え作物の是非をめぐる行われた少人数による「コンセンサス会議」などを紹介した。

また議論の結果について「政策決定者にとって結果は多様な意見の一つ。市政に『反映せよ』より『生かし方』を提案した方が生産的」と目標設定の在り方を指摘。市民討議会の目的について



6月開催予定の第2回市民討議会の議題について意見を交わす出席者